

理事会議事録

平成 23 年度第 1 回理事会

1、開催日時：平成 23 年 4 月 26 日 (火) 15:00 ～ 17:00

1、開催場所：檜山コミュニティーセンター

1、技師会理事数：25 名

参加理事

阿部毅、佐藤寛、遠藤正志、藤田秀文、宮野勇徳、三浦徹、奈良悦子

佐藤義暢、熊谷優子、斎藤敦、田中喜美子、高橋一彦、伊藤晃、武田亮

欠席 (○委任状提出者)

○市川聡、○川上登、○阿部真理子、○貝田奈津子、○高橋稔、○木内優子

○村岡利生、○高橋和則、平澤裕之、高山憲雄、金子栄一

参加理事 14 名、委任状提出理事 8 名、計 22 名で総理事の過半数を越えており、今回の理事会は成立した。

1、書 記 : 奈良悦子

1、議事録署名人 : 宮野勇徳、佐藤寛

1、議事内容 : 阿部会長が議長となり、資料に沿って審議された。以下に審議内容、決定事項を示す。

議 事

議長 阿部毅会長

宮野理事：平成 23 年度第 1 回理事会を開催いたします。

はじめに、この度の東日本大震災で亡くなられた方々に黙祷を捧げたいと思います。

黙 祷

I 会長挨拶

阿部会長：年度始めの忙しい時期に集まっただきありがとうございます。

3 月 11 日の東日本大震災の影響がまだまだ拡大傾向にあります。

3 月下旬に理事会と総会を予定していたが、計画停電、ガソリン不足余震などの影響もあり、平成 22 年度第 2 回総会を中止した。理事会については、緊急理事会を開催しなければならない状況であったので、電子理事会という形で開催した。

5 月 21 日の平成 23 年度第 1 回総会については、平成 22 年度第 2 回総会が

中止となっているため、2つの総会をあわせた形で開催することをご了承願いたい。役員改選の時期でもあり、皆様の理解とご協力をお願いしたい。

II、前回議事録確認

平成 22 年度第 3 回理事会 平成 23 年 2 月 10 日 15 : 00～17 : 00

— 議事録確認 —

阿部会長：今回、東日本大震災の募金の金額は、秋田県では 7 億円を超えた。被害のあった各県に平等に配布し、残りの 4000 万円は、秋田県に避難してきた人のために使う予定である。震災のボランティアについては、安全確認がとれた時点で社会状況もふえて、判断したいと思う。

III、議事

議長：阿部会長

書記：県北・奈良 悦子

議事録署名人：宮野勇徳、佐藤寛

IV、議題 議長：阿部会長

宮野理事：平成 23 年 5 月 21 日の総会について

13 : 00～14 : 00 平成 22 年度第 2 回総会

14 : 00～15 : 00 平成 23 年度第 1 回通常総会

15 : 15～17 : 00 講演 2 題予定 ①精度管理 ②講演

17 : 00～19 : 00 情報交換会

今回は 2 枚の案内状を色分けして出します

阿部会長：2つの総会を 1 日で開催することとなった。役員改選については、本来であれば平成 22 年度第 2 回総会の時に新役員の承認を受けるのだが、今回は平成 23 年度第 1 回総会の最後のところで役員改選の報告・承認を行う予定である。

宮野理事：総会役員については、平成 22 年度の各支部長に人選をお願いしたい。

阿部会長：平成 22 年度の収支決算について報告をお願いしたい。

田中理事：まだ収支のすり合わせが充分出ていないため、暫定報告となります。

— 収入と支出の報告 —

阿部会長：ほぼ予算どおり執り行われている。まだ少しの増減はあると思われるが、会計監査を受けてから総会報告となる。

宮野理事：日臨技よりの助成金で実施しているエイズ撲滅キャンペーンは、日臨技は実施しないと言っていたが、秋田県では実施している。

藤田理事：精度保障部の 180.000 円について、日臨技から助成金が入ると思うが、収

支報告に乗せなければならないのではないか。

田中理事：まだすり合わせが不十分なので、今後うめていきたい。

三浦理事：精度管理部門の会計報告については、まだ藤田理事の所にある分もあるので、出来上がっていません。

阿部会長：平成 22 年度 2 回総会で秋臨技の公益法人移行のための定款作成の費用を特別会計より出したいが、いかがか。

法人の移行は、平成 25 年 11 月が届け出の最終となっているため、準備を進めたい。以前の総会で公益法人を目指すとして決定している。定款作成は、細かいところまで作成するのは難しく、専門の方をお願いしたいと考えている。

休 憩

斉藤理事：日臨技や東北の他県では一般法人を目指すなか、秋田で公益法人を目指すのはなぜか。

阿部会長：日臨技が一般をめざすのは、石橋を叩いて渡るということである。

日臨技は厚生省、秋臨技は県の届け出となり、県と国では厳しさも違う。日臨技が公益をとって走り出してから、条件がそろわなかったりして、こけてしまえば解散となってしまう。

各県の技師会はそれぞれの県によって基準も違うが、秋田県の場合は、ホームページの充実、公益性のある講演会などを少し増やせば、公益法人に移行しても問題ないでしょうとアドバイスを受けている。

斉藤理事：もし、秋臨技が解散となれば、その後はどのようになるのか。

阿部会長：もし、解散となれば、またそこから一般法人をめざすでもよし、一般団体でもよし、再スタートとなると思う。

一般法人でも公益法人でも定款の変更は必要となる。

佐藤理事：1 から 10 まで専門家からサポートしてもらおうと、100 万円くらいかかる。

阿部会長：われわれがやると、かなりの時間と専門的な知識が必要となり、期間に間に合わなくなれば大変である。

遠藤理事：一般法人の場合、課税されると思うが、今の秋臨技だと、どのくらいの金額になるものか。

阿部会長：それほど高額ではないと思われる。公租効果でも 30 万円くらいである。

佐藤理事：平成 25 年 11 月がリミットなので、来年中には申請まで進めたい。

阿部会長：東北 7 県の中で公益をめざすのは秋田県だけである。宮城県は一般法人の全国一番乗りを目指しているらしい。

秋臨技としては公益を目指して進めてきたので、一般法人を目指したい

となれば、あらためて総会にかけて進めないといけない。

遠藤理事：前回、総会に提案され、承認された話でもあるし、前会長の時代から充分下調べをして進めてきた話なので、信用して進めていくほうがよいのではないか。

阿部会長：その際の費用は特別会計を運用させていただきたい。

阿部会長：今年は秋臨技 60 周年となっており、記念式典を企画したいと思っているが、いかがか。日臨技は今年 60 周年記念式典を 11 月 11 日に行う予定である。

佐藤理事：これまでは、5 年毎に記念式典を行ってきた。55 周年は開催しなかった。秋臨技の組織力の強化、若い世代に継承していくという意味もあり、他の団体にも秋臨技をアピールするいい機会にもなる。

田中理事：予算のほうはどのように考えているか。

阿部会長：以前は学会の前日などに行っていて、予算は特別会計から出していた。

藤田理事：県学会は平鹿で開催の予定だが、秋田市で記念式典を開催すると学会と別々になってしまう。

阿部会長：学会に絡めたほうが、人は集まると思うが、招待される人も秋田市の方が、都合がいいのでは。

宮野理事：やり方はまた後で相談したいと思う。まずは、やるかやらないかについて、相談しないとけない。

阿部会長：総会にかけたいと思う。11 月頃はいかがか。19 日、26 日が土曜だが、検査展が終わってから 11 月 26 日頃に開催ということで提案したいと思う。

阿部会長：おとし、東北学会を開催した時、榊前会長より東臨技の資料をいただいたが、充分活用できなかったもので、一冊に纏めたものを、各施設 1 冊と言うことで配布したいと思う。又、義援金の案内が各施設に届くと思うが、5 月 25 日が期限なので、よろしく願いしたい。今回集めた義援金は、日臨技に送られ、その後被災した会員へ配られる。

平成 23 年・24 年の役員は、役員推薦委員のほうから、発表してもらう予定である。

宮野理事：3 月 28 日現在、技師会費未納の方の名簿あるので、納入がまだの方が近くにいたら、ひと声かけてあげてください。これで、理事会を終わります。

以上

社団法人 秋田県臨床検査技師会

議事録署名人 宮野 勇徳

議事録署名人 佐藤 寛